

CN5周年記念・座談会

クラブ5周年の回顧と これからのあり方

座談会 出席者

1989~90	幹事	L市川 直
1990~91	幹事	L木村 利男
1991~92	幹事	L市川 伊嗣
1992~93	幹事	L大岩 政寛
1993~94	幹事	L山本四十三

広報担当 (司会)	L大原 義政
(記録)	L鈴木 孟
	L鈴木 良朗
	L岡田 光男

新クラブへの期待が沸々と クラブ誕生の苦労話

L大原（司会） 定刻にお集まり頂きましてありがとうございます。5周年記念事業も順調に進んでおりまして、同慶にたえません。本日の座談会は、幹事として会長を助けられて、どちらかというと裏方、番頭役に徹してこられた歴年の幹事さんにお集り願いました。クラブ5周年の回顧とこれからのクラブのあり方ということでお話しをお話をさせていただきたいたいと思います。

我が蒲郡マリンライオンズクラブは、平成元年2月28日に、88名のメンバーで、334-A地区99番目のクラブとしてスタートし、5月7日にチャーターナイトを行っております。

初代幹事のL市川直に、設立当時の様子をうかがいたいのですが…。

L市川直 設立前のことについて申しますと、当時蒲郡クラブに所属していたL深津六郎が334-A地区的会員・エクステンション委員長になりました。エクステンション委員長というのは新しいクラブを創るのを主な仕事とする委員長として、時のガバナーL萩原が来訪したときも「東三河でもう一つクラブを創りたいがこんどは蒲郡ですね」ということでした。蒲郡クラブとしても、とにかくエクステンション委員会を発足させ、その時、L市川伊嗣もエクステンション委員に選ばれました。しかし、委員会はできただけれども新しいクラブの創設はちょっと無理だなあ、という思いが支配的でした。

その時、故L酒井一利から「まず、会長と幹事二人で新クラブ創設の旗揚げをしてみては…」という意見がでました。会長がL鈴木靖夫、幹事が私でしたが、新しいクラブへの移籍を希望する人を募りました。地域を絞らず、積極的に勧誘せず、あくまで無理をせず、自然にというのが前提条件でした。

その結果、新しいクラブへ移籍を希望する人48名に対して、蒲郡クラブに残る人が49名となつた訳です。蒲郡クラブの会長には、第一副会長だったL原田が就任することになりました。

〔大原〕 とすると〔市川直〕は、蒲郡で幹事をやり、蒲郡マリンの幹事をやった訳ですか…。引き続
いて大変だったんですね。

〔市川伊嗣〕 蒲郡クラブで8ヶ月、蒲郡マリンクラブで16ヶ月、丸2年ですね。

〔市川直〕 発足のとき、私が一番うれしかったのは、48人の人達が新しいクラブに期待を持って移
籍してくれたこと、新しいクラブ作りに意欲を持って参加してくれたことです。まさに幹
事冥利につきる思いでした。

〔大原〕 新しいクラブ作りに48名の会員が一つになって活動したわけですが、また、新たに40名も
の新会員を一度に集めたんですね。これも大仕事だと考えるんですが…。

〔市川直〕 それぞれのメンバーに知り合いを誘って頂いて、候補者としてリストアップしたのが56
名でした。何人という制限はしませんでしたが、どんな人が良いか、私も幹事でしたし、
移籍したすべての人に計りました。自ら辞退した人もおりましたし、結果的に40名が新会
員に決まった訳です。

〔大原〕 記録によりますと、2月28日の発足の前に、まず、特別委員会が設立され、さらにエクス
テンション委員会ができ、その次に、エクステンション実行委員会へと移行し、実に13回
の会合を開いていますね。その上に1、2月に入り、今度は仮例会を3、4回開催してい
ます。実に慎重にものごとを運んでおられ、ご苦労も多かったと思います。その点、エク
ステンション実行委員であられた〔市川伊嗣〕、理事だった〔木村利男〕はいかがですか。

〔市川伊嗣〕 苦労と言って…、私にははっきりした記憶がないんですけど…。

〔木村〕 私が当時耳にしたのは、「普通、新クラブを結成するときには、新会員がほとんどだけれ
ど、今度は移籍組が多いので楽だ」ということでした。しかし、人選の面その他、なかなか
難しい点もありましたね。

〔大原〕 組織作りのご苦労は伺ったわけですけれど、資金作りについてはどうでしたか。

〔市川直〕 資金についてはちょうど半期が終わったところで、移籍した人は1月からマリンの方に
会費を振り込むということになりました。そして、大して多くはなかったんですが、積立
金などは分与しました。

〔大原〕 財産分与といつてもわずかな財産。その中で5月7日には150名以上の来賓を迎えてのチ
ャーターナイトをやっている。これはえらいことだったと思うのですが…。



蒲郡商工会議所役員室にて ザックバランな座談会

CN5周年記念・座談会

L市川直 そうですね、記念事業費として別に集めたのですが、設立のとき、確か一人2万円づつだったそうですかね。

L木村 そう。その程度でした。

L市川直 それからもう一つ、ゾーンやリジョンにおける蒲郡マリンライオンズクラブの位置とい

うことについてですが、地区の内規には、新しいクラブでは5年経たないとゾーン・チェアーマンを送り出すことはできないし、10年経たないとリジョン・チェアーマンになれないという規則があるわけです。蒲郡マリンの初代会長だったL鈴木靖夫は、発足した時のリジョン会議、正式名ではガバナー諮問委員会というのですが、その会議の席上、48名の移籍者があることと理由に、新クラブという枠を外して、ローテーション通りにゾーン・チェアーマン、リジョン・チェアーマンを出させてくれるように申し入れ、皆さんからの快諾をうることができました。このことはこれからのマリンクラブにとって重要なことだと思います。

L大原 L山本とL大岩とはどちらが早く入会されたんですか。

L山本 創立メンバーとしては一緒ですね。

L大岩 若干日にちが…、私が3月…。

L市川直 チャーターメンバーとしては一緒ですね。チャーターメンバーの扱いは5月7日の“認証の日”をもって決まる訳ですから、それとチャーターメンバーにはスポンサーはありません。

L大原 新会員として入会されたL山本としてはクラブに対する夢はありましたか。

L山本 入会しておもしろそうだという感じはしましたが、夢といわれると…。いろいろな人と知り合いになりたいなということはありました。

L大原 L大岩はいかがでしたか。

L大岩 名前の持つイメージから、若くてバイタリティーがあって、新進気鋭の人の集まり、という印象はありました。マリンクラブは若い人が多くて、自由にもの言えるクラブだ、という話はきいていましたし、そう思いました。

L木村 当時平均年齢で、蒲郡クラブより6才位若かった。

L山本 現在ではマリンクラブの方が1才年上です。

L大原 平均年齢を上げてしまう一人で申し訳ありません。(笑)

L大岩 年には余り関係ないですよね。気持ちの若さ、やる気の問題ですね。

L大原 マリンという名称についてはどうでしょう。募集したんですか。

L木村 名前はいろいろ出してもらって、たしか多数決で決まりました。マリンというのが圧倒的多数の賛同を得ました。

L大岩 全国にもマリーンと名の付くライオンズクラブが、横浜、神戸など4つ、5つあったと思いましたが、みんなマリーンとのばしているようです。私の好みから言うとマリンといったほうがすっきりしていて好きですね。



創立の苦労を語る L市川 直

会員の和あってこそ ウィ・サーブ

幹事として心掛けたこと

L大原 このへんで各年度の幹事として心掛けたこと、力点をおかれたことについて話していただきたいと思います。前年度の幹事L大岩からどうぞ…。

L大岩 私のようなライオン歴の浅い人間が、とおもったのですが、前キャビネット幹事L光岡から「自分を磨くために幹事をやらせて頂くのだ」という言葉をお聞きしました。一生懸命やれば皆さんから信頼されるのではないか、と思いまして引き受けることにしました。心掛けた点といいますと、常に「ご指導頂く」という気持ちでやること。家庭や会社の理解がないとできないので、時間の調整を上手にすること。会社の場合は始業時間前とか、終了時間後にクラブの仕事をするなどでした。

毎日、朝の挨拶を兼ねて会長に電話して指示を仰ぐ、FAXをフルに活用すること、できるだけ多くの会に出席すること、記録を取り、資料を集めてバインダーに綴じておくこと、などでした。

L大原 本当にL大岩は厚い資料をいつも持っておられて、よく見せてもらい、参考にさせて頂きました。L木村はL鈴木敏允会長といっしょでしたね。

L木村 私の場合は創立2年目ということもあって、まだまだ皆さんも不慣れなことが多いのは分かっていました。それで会長方針でもあったのですが、各委員会には積極的に出させて頂くことにしました。計画委員会では、始め顔合わせ的に集まって頂いて「計画委員会とは大変な役目なんだ」というような話を会長にしていただき、幹事の私も「何でも相談にきてくれ」などといって、皆にその気になつてもらって和をつくり、意気投合しました。

外的にはまだ知られていない蒲郡マリンライオンズクラブをPRするためにも、当時ゾーン・チャアマンだったL原田にお願いして、最後の打ち上げを蒲郡で行ってもらいました。会長がザックバランな人でしたから、事あるごとにマリンのアピールにはつとめました。

L市川伊 私はもともとこういったことが嫌いな方でして…、好きなら喜んで打ち込めるんですが…。森会長は「アバウトでいい、アバウトでいい」と常々いっておられましたが、なかなかそうも行きませんでした。会長自身が非常に世話好きでしたので、私などがとやかくいう前に、自分でやってしまう、ということが多かったと思います。ありがたい面もありましたが…。

幹事としては会長の基本方針に従ってやって行くことを心掛けました。

「明るい例会」というのが奉仕のもとになる。会員のなごやかな和があつてこそ、ウィ・サーブが生きてくる、と考えていましたので、その方針のもとにやつたつもりです。

皆さんのが喜んで出席してくれる例会にしようということですね。ということは、幹事の立場からいうと世話役に徹することでしょうね。



潤滑役に徹したL木村利男

CN5周年記念・座談会

レ 大原 アバウトであると同時に、緻密な会長の許で一緒にやっておられる現幹事レ山本はいかがですか。

レ 山本 これは生意気な言い方かも知れませんが、僕は人の能力には差はないと思っていました。ですから、始めに幹事という打診があったとき、他人の出来ることなら自分にも出来るだろうという確信があったんです。

せっかくの人生、いいことも嫌いなことも与えられたのなら積極的に受けてみようと思っていたわけです。しかし、実際にやってみると大変でした。私は口が多いものですから、幹事として裏役に徹して黙っていなければならなくなると、ストレスがたまってしまうんです。幹事としてはこの点が一番不適任かな、と思ってみたり、また、正しいことは幹事でも積極的に意見をいすべきではないか、とも考えています。

レ 市川直 まず、幹事として心掛けなければならないことは、ライオン歴が古いとか、新しいとかということを言わないこと、ライオン歴が古い人の意見だから尊重する、というようなことがないようにすること。すべての会員が平等なんです。そしてなによりも、メンバー全員の顔と名前を覚えること、ネス（夫人）も覚えなければならぬと思います。幹事としては、会員の内輪のこと、癖まで覚える努力をすることです。名前が分からんでは話にならないでしょう。

会長は外に向かって、またクラブ内に向かって、クラブを代表しているので、会全体を踏まえた意見を持って、どんな圧力がかかっても、YES、NOをはっきり言わねばなりません。上手にクラブを取りまとめるのは、幹事の役目でしょうかね。

汗と時間でつくるウィ・サーブ

心に残っているアクティビティ

レ 大原 さて、次に心に残っているアクティビティということでお話を伺いたいと思います。

レ 市川直 クラブの活動として心に残っているものといえば、チャーターナイトとかいろいろありました。市民に対するPRとして、上坂冬子を講師として文化講演会を行ったことだと思います。あの講演会が、現在の文化講演会の先駆けの役目を果たし、ルートを作りました。継続事業として毎年やっているということが意義深いことです。上坂冬子、藤原てい、佐藤愛子、平岩弓枝、そして今年度の橋田壽賀子と続いている。

私たちのクラブの事業としては、一番一般市民に知られているし、一番喜ばれているものだといえるでしょう。今までのどの講演会も大盛況だったのが、そのことを物語っていると思います。



上坂 冬子



藤原 てい



佐藤 愛子



平岩 弓枝

橋田壽賀子

〈クラブの伝統となった文化講演会の5人の講師たち〉

Ｌ大原 Ｌ木村はいかがでしょう。

Ｌ木村 最近感じていることに、以前は体で行動するアクティビティというのが多かったんですが、このところ少ないように思われます。その中で、昨年、社会福祉委員会が行った“つつじ寮へのチャリティーバザー”と“つつじ寮生との親睦会”はよかったです。チャリティー用の品物集めから、値付け、展示、そして販売、親睦会では会員の皆さんに慣れない手つきで、“おでん”をよそってやったりして、知恵遅れの子供達に本当に喜んで頂けたと思います。ただ、あれには後日談がありまして、子供達がうれしくなっちゃってセーブがきかない、食べ過ぎちゃって、先生方が大変だったということでした。

前に、やはりつつじ寮の運動会のお手伝いをしたときも、大変喜んでいただきました。やはり体であるアクトがいいですね。参加するほうも“やったんだ”という実感が味わえるんですね。その点で、創立のときにやった“凧上げ大会”なんかも印象に残っております

Ｌ大原 Ｌ市川伊嗣はどうでしょう。

Ｌ市川伊 Ｌ大原義政を中心にやって頂いた市民アンケートは、ライオンズ、特に我々の蒲郡マリンライオンズクラブについて、一般市民の方たちがどれだけ認識して頂いているか、についてのアンケートだったわけです。アクト金額としては10万円足らずでしたが、市民の方々にアピールしたという点で、また一般市民のライオンズへの要望についても知ることができたという点でよかったです。

もう一つ、これもＬ大原に関係するんですが、外的PR紙として“マリンレポート”を創刊したこと。

アンケートも、マリンレポートも全国誌ライオン(THE LION IN JAPANESE)に大きく取り上げられました。

マリンの会員としてうれしいですね。

Ｌ大原 どうもありがとうございます。前年幹事のＬ大岩の心に残っているアクティビティというと…。

Ｌ大岩 私たちの年度では主な事業が5つほどありました。飯田赤石ライオンズクラブとの姉妹提携、竹島海岸の清掃などの三河湾クリーン作戦。それに先程から話がありました平岩弓枝の文化講演会、つつじ寮へのアクティビティ、マリンレポートの発刊などです。

特に姉妹提携については、前会長のＬ市川直が第一副会長の頃から熱意を燃やしておられて、たまたま私も観光という仕事をしているのですから、信州方面のクラブに当たってみたりしていたのですが、なかなか難しかったんです。ところが先年度になって、先方の飯田赤石ライオンズクラブからの呼び掛けがあり、トントン拍子に提携に漕ぎ着けることができました。会長の意志が通じたのだなと思い、私も幹事としてこんな喜びはありました。両クラブの関係した皆さんのご努力も相当なものがありました。敬意を表します。

Ｌ大原 姉妹提携については、マリンライオンズクラブとしても歴史に残る大事業でした。



自然体で話すＬ市川伊嗣

CN5周年記念・座談会

まず出席！ 先輩はよい手本をこそ

クラブの問題点とこれから

L大原 それではこのあたりから、マリンライオンズの問題点、あり方、運営についてザックバランなご意見を伺いたいのですが…。例えば、例会、理事会、委員会等のあり方といった面でも幾つかの問題があろうかと思うのですが…。他のクラブとの比較などもしていただきて、現幹事のL山本はいかがでしょう。

L山本 理事になってしまっても理事会に出席しない人が結構多いですね。欠席が2回、3回と重なってきたら、幹事の責任だとも思うのですが、選任する時にそのへんの打診をしておくことはできないものでしょうか。また、委員会などでも一番大事な人が出てこないことが多いですね。出てくれないと困るんですが、それが年長者であったりして、言ったら角が立つとなると注意できない、なんてこともあります。

L木村 私らのときまでは大体出てくれていますね。時間もきっちりしていました。議題の多いときは目一杯やって、たいした議題の無い、ポイント1つのときは30分理事会も計画してみました。スマートでよいと言うご意見もいただきました。会長の考え方を私がお膳立てをしたんですが、当時の理事の皆さんよく出席してくださったように思いますけどね…。

L大岩 これは自慢する訳ではないのですが、先日の広報部会、14名全員の出席がありました。14名ですが、100%出席というのは私としても初めての経験です。



資料に基づくL大岩政寛の談話

L大原 私も委員会で100%出席というのはあのとき初めてでした。大岩部会長が、案内状の下に出席すべき全員の名前を書いてくださるのがいいんじゃないでしょうか。

L大岩 ゼビ100%を、なんて無理じいした訳でもなく、ごく自然体でできたんです。委員会で全出席というのはうれしかったですね。

L大原 よく例会で「何々委員会の方はこの例会後お残りください」なんて言うんですが、自分の所属を知らない人もいますね。

L山本 委員会の場所、時間も考えてほしいですね。特別例会の前など、ロビーでやられると次のこと気が気になるし、周りはざわついているし、身が入りません。

L大原 関係者が資料を準備して、提出してくれるとやりやすいですね。今日も大岩市民教育奉仕委員長から明日の理事会向けの資料、文化講演会のスケジュールを、会長始め皆さんにも配って頂いたんですが、資料があれば分かりやすいし、能率的で、よい結論が出せると思うんです。

L大岩 それについては、昨年の大岩委員長のやり方を見習っただけなんです。よいレールを引いてくださったことを有り難いと思っています。

それに今度の文化講演会の講師との交渉についても前会長のL市川直に貴重なアドバイスを頂きました。

手っ取り早いということで、NHKの文化センターにお願いしようと思ったんです。そこに頼むと、講師の選定から、ポスターやパンフレットの作成まで、すべてやってくれるんです。汗を流さなくてもすむ方法があったんです。そちらに走ろうかと思ったとき、L市川直から「足と汗でやらないと意味がない」といわれて、ハッと気がつきました。

それで、いつも図書館でボランティアをなさっているL大原にお願いして、橋田壽賀子に関する資料を取り寄せて頂き、直接交渉することができました。そういうことが大事だと思いますね。

先程、ライオン歴云々という話もありましたが、年の功というか、経験というか、冷静沈着な大局観というか、そういったよいものに対する敬意は大切にしたいと考えています。



若さで語るL山本四十三



司会をするL大原義政

私たち若い者はバイタリティーでそれを受け止めて行く、と言った具合で…。

L山本 よいものを残す努力もせず、文句だけ、というのは避けたいですよね。

L市川伊嗣 先輩によい土台をつくってもらってやりやすい、というL大岩の話が出ましたが、それぞれの委員会などでは良い先輩がどんどん後進を育てていく、よい手本を伝えていく、前向きなシステムを作っていくということが大切でしょうね。

みんなで役割分担をし 全会員が誇りに思えるマリンクラブに…

L大原 そういう意味では、年度納めの例会でよく活躍した委員会に賞をあげる、なんていうのも励みになるかも知れません。そうすれば他の委員会も、我々も、ということで意欲を持ってくれるのでは…。

L山本 しかし、何をやってもやらない人はやらないですよ。

L大岩 そういう、いわば無気力メンバーというんですか、かえってそういう人に逆療法として役をお願いしたら、意欲が沸いてくることはないですか。

L木村 今、L大岩のいわれたことは非常にいいことだと思います。クラブには一騎当千の方ばかり、与えられれば何でもできる人ばかりです。だからやらせるべきです。

L山本 そうですよね。能力にそんな差はないんですから、全員で役割分担をしていったら。

CN5周年記念・座談会

木村 遠慮しているだけで、やる積りになってくれれば、できる人ばかりですからね。もう一つは、お互いにもっと親しくなれるようにすること。例会のやり方も考えるべきです。隣に座ってもなかなか声も掛けない。この間もやりましたが、夜の例会も期待しているんですがね。銀行などの交替会員にもどんどん役職を与えてもらうことです。支店長などで能力はあるんですから。委員会などでも、委員長がお膳立てをしてくると、あとはハイハイと聞いて終わってしまうようではダメで、人ととの交流をもっともっと活発にすべきですね。

山本 近頃自分もつくづく思うのですが、人間が地位をつくるのでなくて、地位が人間を作るんだということですよね。

市川直 それについてですけれどね、在籍1年以上でないと委員長になれないし、在籍2年以上でないと理事になれないという、マリンライオンズクラブの内規があるんです。

まあ、それはそれとして、私としては、蒲郡マリンライオンズクラブの目標として、若い人を幹事にして、会長にして、ゾーン・チエアーマン、リジョン・チエアーマン、そしてガバナーにまで、我々のクラブから出せるような人材を養成しなければいかんと思っているんです。

2リジョン・2ゾーンの中で最大のクラブとして、ガバナーを出して、334-A地区に、蒲郡マリンライオンズクラブ健在なり、というところを見せたいね。若い人材をどんどん養成して、リジョン・チエアーマンであろうと、ガバナーであろうと遠慮なく引き受けることができるようなクラブにすること。会員全員が蒲郡マリンライオンズクラブを誇りに思えるクラブに、みんなが一つになって作り上げることが大切でしょうね。

木村 今おっしゃったのが、我が蒲郡マリンライオンズクラブの夢であり、大きな課題でしょうね。

大原 残された5周年の記念事業を全員の協力のもとで遂行し、また、4月9日の記念式典をりっぱに仕上げること。そしてまた、今年の5周年記念事業のエネルギーを、さらに10周年に向けて育ててゆくこと、蒲郡マリンライオンズクラブの本当の実力を作っていくことですね。今日は有意義なご意見を、本当にありがとうございました。

(1993：10：14)



定例会場の蒲郡市民会館